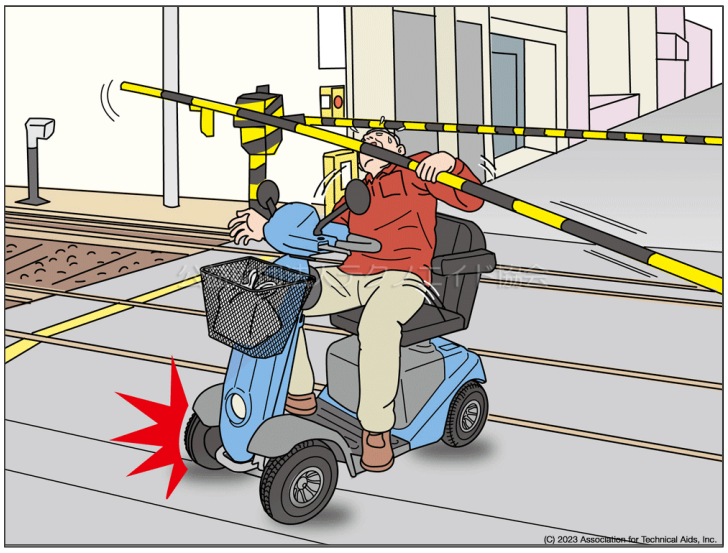
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：385

踏切で降りてきた遮断棒に引っ掛って転倒し、電車にはねられそうになる

場面の説明

踏切を渡り終える直前に下りてきた遮断機に身体が引っかかって転倒し、列車にはねられそうになった。



利用シーン	移動 外出
主な利用場所	踏切
介護保険の種目	車いす
分類コード (CCTA95)	122124 (電動三輪車・電動四輪車)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

遮断棒は、踏切内に取り残されないように車両であれば押し壊して、歩行者であればくぐり抜けて通過ができますが、全高１m程度のハンドル型電動車いすでは車いす本体はくぐり抜けても運転者が挟まれることが考えられます。踏切内に取り残されないよう余裕をもってわたりきることが大切ですが、万一閉じ込められてしまったら、遠慮せずに周囲の人に助けを求めましょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：耳が遠く、警報音が鳴っているのが聞こえなかった
環境：渡りきるのに時間がかかる幅の広い踏切だった
環境：遮断棒が、車いすのハンドル部はくぐり抜けて、身体に直接当たる高さだった
管理：踏切内に取り残された場合の脱出方法について検討されていなかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.